
「TOMORROW」の冒頭「 涙の数だけ強くなれるよ」だけで思いついたクソ話

ぬじゃわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「TOMORROW」の冒頭「涙の数だけ強くなれるよ」だけで思いついたクソ話

【Nコード】

N2774N

【作者名】

ぬじゃわきし

【あらすじ】

「涙の数だけ強くなれるよ」で、リアルに強くなったらどうなるかというバカ小説

とある町。ここは、治安があまり良くなく、不良どものうろつくところで有名な町であった。したがって道行く人々は不良にからまれないうような細心の注意を払わなければいけなかった。

そんなある日、岡本君は、文房具を買いに外に出かけて、文房具を買って、帰り道を歩いた。夕方なので夕日が赤く眩しく、ちよつと目がくらんで、目を覆った。

だが、すぐに暗く感じた。見ると、目の前に大きな不良が沢山立ちはだかっている。

「おい、カネもってるんだろ？貸せよ。」

岡本君は拒む。

「いやだ！」

「なんだよ、言う事聞かないって言うのか？」

不良は岡本君を物陰に引き連れて脅した。

「いやだ！これは母さんの金だもん！」

「そうか、裕福なんだ・・・ビンボなオイラにもちよつと恵んでやれよ。」

「イヤダ！い・・・いやだ・・・」

突然岡本君は涙を流した。

「うわ、こいつ泣きやがった。弱えなあ。」

だが突然岡本君は不良の手を引き払って、強く殴った。あまりの衝撃にその不良は倒れた。

「うわっ！いててて」

すると岡本君は歌いだした。

「涙の数だけ強くなれるよ・・・そう、涙の数だけ強くなれ

るんだよ・・・」

不良はその言葉の意味をすぐに察した。さっき殴られたくやしさを自ら増大させて不良は泣き出した。

「うっうっうぐっうぐっ」

他の不良は「なんだこいつ・・・殴られて泣いてる」と馬鹿にしたが、岡本君は察した。これは男の涙の対決だ。

不良は「どわああああ」と跳び上がって、「アチョチョチョチョ」と空中で何度も蹴りをかました。岡本君はそれを避けたが一回頼に当たってしまった。

倒れながらその悔しさに涙して「いつてえな・・・」と涙した瞬間岡本君は強くなった。どわっと飛んで、岡本君は空中でくるくる回転しながら高速で不良に向かってとび蹴りしたのだ。だがその前に不良は前の涙を延長させて泣いていたらしく、それを掴んでぶんぶん振り回して投げ飛ばした。振り回された恐怖で岡本君は涙してそれでまた強くなって、投げ飛ばされた頃には、すたっと地面に上手に着地した。

夕日の下で両者は次の手を考えるべく固まった。両方ともつらい思い出を一生懸命思い出していた。岡本君はゲーム無しになった思い出。不良は父に殴られた思い出。先に不良の方が涙が出た。よし、来た。殴られた思い出で怒りも増し、「どりゃああ」と叫びながら不良は岡本君に殴りかかった。

だが、その時異変が。岡本君が突然激しく泣き出したのだ。

「うっうっうっうぐっうぐっうぐっ」

激しい涙。「涙の数だけ強くなれるよ」を思い出し、何か嫌な予感で不良は一瞬うろたえたが、何ぞ！と再び殴りかかろうと走りだ

した。

だが、突然衝撃を感じて、不良は転倒した。岡本君は泣きながら「うがああああああ」と叫んで、家中の窓ガラスを次々と割り、空中へ浮かびだした。

「これは・・・」

と不良が言くと、岡本君は勝ち誇ったように言った。

「はははは、涙の数で僕の勝ちだ。僕は最強になったんだ！死にたまえザコめ！」

そう言っで見下げる岡本君の目が光りだしたのを見て、不良は何かを察し、逃げた。岡本君の目からエネルギーが発せられ、壁ががらがらと音をたてて崩れた。光の雨の中を不良は逃げた。次々と家屋が倒壊する。そのうち岡本君は両手を合わせて波動ビームを出した。

「わあ！」

気がついたら、足元に5mの大穴が開いていた。不良は命乞いをした。

「わあ！許してください！お金は盗りません！あなたからはゼツタイ盗りません！盗りませんから！」

だが岡本君の顔が強張るのを不良が見た。不良は気づいた。命乞いをするとき大量の涙を流した。涙を。大量に。そう沢山。どつくんと不良は鼓動を感じた。自分が強くなる鼓動を。どうなるんだ、いったい。

爆発。

「げはははははは」

不良は最強になって空中を飛び出した。なぜか髪の毛の色が黄色に変わって総立ちしていた。

「はははは、さっきはよくもやってくれたな、ガキめ！」

不良は空を飛びながら襲ってきた。岡本君はひいひいと泣きながら逃げた。泣いたのだ。そう。岡本君はさらに強くなった。

「ぎゃあああ、やめろー！ー！！！！」

とふたたび不良は叫びだした。不良は逃げながら泣いた。

そうして、二人は泣きに泣き、お互いにどんどん最強になって言ったが、なかなか試合に決着がつかず不良たちは帰っていった。

やがて夜3時。

「そろそろ、決着をつけようか。」

「そうだな。」

「じゃあもうすぐ夜明けだから、夜明けの光が来たときに一発決めたら勝ちにしよう。」

「賛成だ。」

そう言ってる間にも光の予感を感じた。二人は泣こうと目を振り絞った。もう涙はすっかり枯れていて全くでなかったが、必死にまぶたを縮めて出そうとした。

「ぬおおおおおお」

「ぐおおおおおお」

いまや二人とも充血しすぎて真っ赤である。その上すさまじい形相で踏ん張るのだから見るに堪えない事この上ない。

「ぐがああああああ」

「おがああああああ」

その時、不良は見た。岡本君の目からぼろりと涙が。そして夜明けの光。不良は青ざめ、岡本君は勝ち誇る。あつという間に不良は体当たりを喰らい、空の向こうに飛ばされていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2774n/>

「TOMORROW」の冒頭「 涙の数だけ強くなれるよ」だけで思いついたクソ

2010年11月21日11時24分発行